

16 体育の授業に参加しようとしなないPさん(中学校)

Pさんは、体育の時間になると集団から離れてしまったり、体調不良を訴えたりします。運動自体が嫌いなわけではなさそうですが、集団の中では同じ行動ができないことがあります。どう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

- ◎協調運動の苦手さや理解面の困難さがあり、失敗経験を繰り返したことにより、特にチーム競技において積極的に関われないため
- ◎感覚の過敏さがあり、大勢の人や広い場所等の環境に混乱してしまうことがあるため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 基本的な動きやルールを個別に指導する

〈①-1-1〉 〈①-2-2〉

- 広い場所や集団の中で話を聞いただけでは、動きやルールが理解できないことがある。事前に個別で説明を聞き、練習する機会をつくとよい。
- 映像や手本の動き、図や絵などの視覚的手がかりがあると分かりやすい。



(例) 球技の場合

- ① ボール操作の練習を個別に行う。
- ② ボールを持っていない時の動きを確認する。
- ③ ルールの確認と協力・公正な態度について学習する。

静かな環境で個別に学習することで、ルールや練習の仕方を理解することができました。

2 参加の仕方を工夫する <①-2-2> <①-2-3>

○チーム競技では、体力や精神的な負担を考えて、参加する時間やポジション等を工夫する。



動きや負担の少ないポジションを考えたり、チーム競技は誰か一人のせいではないことを全員で共通理解したりすることが大切です。

3 好ましい感情表現の方法を事前に学習する <①-2-2> <①-2-3>

○学習場面にふさわしい感情表現の仕方（喜び方やくやしがり方）を活動の前に個別で学び、確認する。

勝ってうれしいときには

- ① 「やったー」「よし！」
「勝ったぞ」など声に出せるのは1回だけ。
- ② その場では喜び、授業後はこだわらない。
- ③ 相手の頑張りを認め、勝負ができたことに感謝する。

負けてくやしいときには

- ① 「次こそは」「今度こそ」など奮い立たせる言葉を使う。
- ② 人のせいにせず、「自分がこうしていれば」と考える。
- ③ 「相手の方がたくさん練習していた」「仕方ない」と上手に負け惜しみを言う。

相手の気持ちを考えることが苦手な生徒にとって、ソーシャルスキルトレーニングは有効です。

4 困った時の対処法を決めておく <①-2-3>

- 困った時に、誰に気持ちを伝えればよいのか、気持ちを落ち着けるための具体的な方法、クールダウンする場所などを事前に話し合っておく。
- 本人なりのめあてを持ち、達成に向けて努力できたことや一部分でも参加できたことを認める。



その場にいることができなくなった時には、保健室で気持ちを落ち着けてから、できるだけ授業に戻る、と事前に決めておきました。約束したことで本人も安心し、戻った時にはほめるきっかけにもなりました。

17 聞こえの障害を併せもつQさん（小学校・中学校）

Qさんは、授業中、落ち着きがなくいつもそわそわしています。聴覚に障害もあるため補聴器を装着していますが、先生の指示を聞き逃したり、聞き間違えたりすることが多いです。特に、騒音下や集団活動等では、聞こえにくさもあり、相手の話を聞きわけるのは難しい状況です。また、友達とのコミュニケーションは一方的なかかわりが多いです。どう配慮をしていけばよいでしょうか。

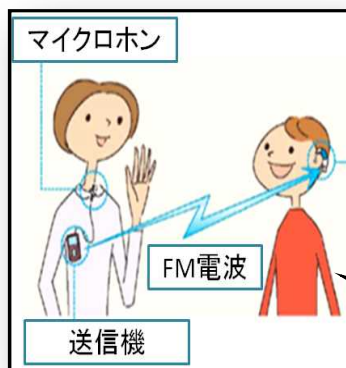
どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎周囲のことが気になり、注意力や集中力が持続しないため
- ◎聴覚に障害があることで音声情報を受容しにくい
○聴覚に障害があるために、音声言語を獲得することが難しく、言葉だけの指示理解ができないため
- ◎音声言語でのコミュニケーションの経験が少ないため

合理的配慮・具体的な支援(例)

1 音声を聞きやすくする <①-2-1> <③-1>

- 教師の口の形がよく見え、話を聞き取りやすいよう、教室の座席は中央か窓際の前から2、3列目、グラウンドや校外学習時には逆光にならないようにする。
- FM補聴器を装着している場合は、FM補聴システムを活用し、確実に音声が届くようにする。また全校集会、集団活動などにも活用する。



【FM補聴システム】



FM補聴システムは、騒がしい場面でも、先生の声が直接補聴器に届くので、状況がよく分かります。全校集会、運動会や校外学習などでは特に有効です。

2 情報を確実に伝える <①-1-1>

- 児童生徒が聞く体制になったことを確認してから指示を出す。
- 指示や大事なポイントは文字にして伝える。
- 行事における進行次第や挨拶文、劇の台詞等は文字にして示す。
- 外国語や国語の聞き取り問題については、別室での実施や読み上げ等、聞きやすい方法で行う。
- 必要な情報が確実に伝わったか、個別に丁寧に確認を行う。
- 必要に応じて、身振りや手話なども用いて、理解を促す。



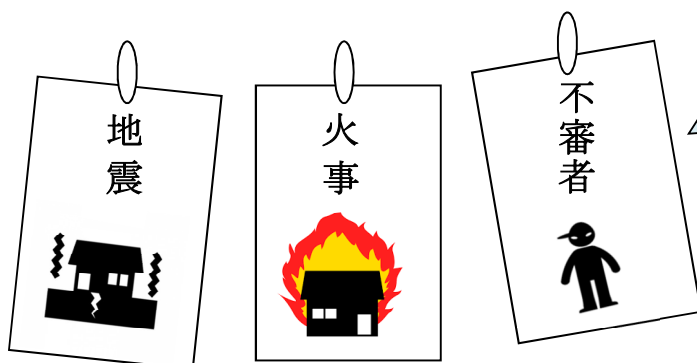
全校集会や校外学習、外での活動等の時には、ホワイトボードやメモ帳があると、必要な情報をすぐに伝えることができ便利です。

3 聴覚障害児への支援のネットワーク作りを進める <②-1>

- 難聴特別支援学級や通級による指導、特別支援学校のセンター的機能の利用等、専門家による支援を積極的に活用する。
- 聾学校などとの連携を図り、理解啓発のための学習会や交流会を設定する。
- 聞こえにくさから情報が入らないことによる孤立感を感じさせないような学級の雰囲気づくりをする。

4 災害時の支援体制を整備する <②-3>

- 緊急時の連絡のとり方について事前に確認しておく。
- 緊急時の音声情報を視覚化して伝えるようにする。



校内のいろんな場所にカード、紙、ペンが置かれています。緊急時には、近くにいる人がカードや文字で教えてくれます。